

1. 目的

浦和美園駅周辺地区の脱炭素社会の実現に向けて、住民の声を UDCMi の取り組みに反映するほか、国・市・企業・市民社会等への提言をとりまとめることを目的に、「みその気候市民会議」を開催した。

2. 実施体制

みその気候市民会議は、明治大学専門職大学院ガバナンス研究科(公共政策大学院)松浦研究室と(一社)美園タウンマネジメントの共催で実施した。実施にあたり、美園タウンマネジメント協会の協力、さいたま市の後援を得た。また、科学研究費補助金(21K12354)の助成を受けた持続可能社会へのトランジションに関する現地調査(Misono2050)の一環としても実施した。

実施にあたり、参加者の募集・選定については主に松浦研究室が担当し、会議の進行やとりまとめについては松浦研究室と美園タウンマネジメントの連携で実施した。

3. 参加者の募集

(1)募集告知

国内の気候市民会議実施事例では、住民基本台帳からの無作為抽出によって募集の対象者を絞り込むことが一般的である。しかし、浦和美園駅周辺地区と凡そ重なる「みそのウイングシティ開発区域」の人口は 17,720 人(2023 年 8 月時点)¹でかつその面積は約 3km²と限られた範囲であり、無作為抽出を行わなくとも、浦和美園駅周辺地区の全ての世帯に対して募集案内の配布ができると判断した。

できるだけ多くの世帯に案内を配布するため、ポスティングサービス²を利用し、2024 年 10 月 2 日から 11 日にかけて、地区内の世帯にチラシを配布(計 6,936 枚配布)した【参考資料1】。また、UDCMi のウェブサイトにも募集を掲載した。募集期間は 11 月 5 日までとし、Google Form に必要事項を記入して応募する形式を用いた。応募の条件は 15 歳以上で、開催日程を示したうえで、3 回とも参加できる見込みがある者を募集した。謝礼については 5,000 円/回とし、支払方法は本人名義の銀行口座への振込のみとした。

(2)応募者と参加者の選定

〆切の 11 月 5 日までに計 62 名から応募があった。応募者のなかから、住所(町丁目・世帯数ベース)、性別、年齢(5 歳階級)の比率が現実の比率にできるだけ近くなるように、参加者 16 名を選定した。なお選定にあたり、浦和美園駅周辺地区外の居住者も多いと考えられる大字大門については、(株)浦和チラシサービスの資料を参考に、地区内(国道 463 号の北東側)の世帯・人口は大門全域の世帯・人口の 53.2%と想定し、補正したうえで参加者数の構成を検討した。

選定された参加者 16 名に対し、11 月 10 日に電子メールで連絡し、11 月 15 日までにウェブサイト上で銀行口座情報などを登録するよう依頼し、11 月 13 日にリマインドのメールを送信した。しかし、4 名からの応答が期日までになかった。11 月 15 日に 4 名を改めて選定し、3 名の参加承諾が得られたが、1 名から辞退の連絡があった。改めて 1 名を 11 月 16 日に選定・連絡し、11 月 18 日までの登録を依頼したが応答がなく、11 月 19 日に改めて 1 名を選定し、連絡したところ、

¹ <https://www.misono-tm.org/udcmi/info/news/17467.html>

² (株)浦和チラシサービスおよび(株)プラスサービスに委託

参加承諾が得られたことで、16名の参加者が確定した。

なお、選定には用いなかったが、「あなたは、気候変動(地球温暖化)の影響をどれくらい心配していますか。」という質問を参加者募集において行った。その結果を表4に示す。

表1:町丁目別の応募者数、世帯数、参加者数

| | 応募者数 | 世帯数* | (比率) | 参加者数 | (比率) |
|--------|------|---------|-------|------|-------|
| 美園1丁目 | 8 | 207 | 2.2% | 1 | 6.3% |
| 美園2丁目 | 6 | 65 | 0.7% | 2 | 12.5% |
| 美園3丁目 | 8 | 851 | 9.0% | 1 | 6.3% |
| 美園4丁目 | 7 | 1,902 | 20.0% | 2 | 12.5% |
| 美園5丁目 | 3 | 782 | 8.2% | 1 | 6.3% |
| 美園6丁目 | 3 | 403 | 4.2% | 1 | 6.3% |
| 美園東1丁目 | 4 | 1,042 | 11.0% | 1 | 6.3% |
| 美園東2丁目 | 7 | 766 | 8.1% | 3 | 18.8% |
| 美園東3丁目 | 2 | 428 | 4.5% | 0 | 0.0% |
| 大字大門** | 7 | 2,169** | 22.8% | 2 | 12.5% |
| 大字下野田 | 7 | 572 | 6.0% | 2 | 12.5% |
| 計 | 62 | 9,494 | --- | 16 | --- |

*埼玉県 町(丁)字別人口調査 令和5年1月1日現在より

**上記調査では、大字大門は計4,080世帯。

表2 性別ごとの応募者数、人口、参加者数

| | 応募者数 | 人口* | (比率) | 参加者数 | (比率) |
|----|------|--------|-------|------|-------|
| 男性 | 33 | 11,649 | 50.4% | 8 | 50.0% |
| 女性 | 29 | 11,468 | 49.6% | 8 | 50.0% |
| 計 | 62 | 23,117 | --- | 16 | --- |

*埼玉県 町(丁)字別人口調査 令和5年1月1日現在より(大字大門について補正済)

表3 年齢(5歳階級ごと)の応募者数、人口、参加者数

| | 応募者数 | 人口* | (比率) | 参加者数 | (比率) |
|-------|------|--------|-------|------|-------|
| 71-75 | 1 | 453 | 2.6% | 0 | 0.0% |
| 66-70 | 3 | 513 | 3.0% | 1 | 6.3% |
| 61-65 | 4 | 735 | 4.3% | 1 | 6.3% |
| 56-60 | 1 | 1,268 | 7.3% | 0 | 0.0% |
| 51-55 | 6 | 2,069 | 12.0% | 2 | 12.5% |
| 46-50 | 7 | 2,462 | 14.3% | 2 | 12.5% |
| 41-45 | 9 | 2,781 | 16.1% | 2 | 12.5% |
| 36-40 | 10 | 2,424 | 14.0% | 2 | 12.5% |
| 31-35 | 9 | 1,602 | 9.3% | 3 | 18.8% |
| 26-30 | 9 | 780 | 4.5% | 1 | 6.3% |
| 21-25 | 2 | 818 | 4.7% | 1 | 6.3% |
| 16-20 | 1 | 1,359 | 7.9% | 1 | 6.3% |
| 計 | 62 | 17,264 | --- | 16 | --- |

*埼玉県 町(丁)字別人口調査 令和5年1月1日現在より(大字大門について補正済)

表4 気候変動影響に対する心配の比較

| | 応募者数 | 参加者数 | Misono2050 アンケートモニター* |
|-------------|------|------|-----------------------|
| とても心配している | 25 | 8 | 36 |
| ある程度心配している | 35 | 8 | 61 |
| ほとんど心配していない | 1 | 0 | 12 |
| 全く心配していない | 0 | 0 | 4 |
| わからない | 1 | 0 | 0 |
| 計 | 62 | 16 | 113 |

* 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科(公共政策大学院)松浦研究室が2023年9月から11月にかけて浦和美園駅周辺地区の住民モニターを対象に実施したアンケート結果

(3)中学生の参加

将来世代の意向を反映するため、さいたま市立美園南中学校の生徒による参加も募集した。学校地域連携コーディネーターとの調整により、1年生1名に参加していただけることとなった。

(4)参加者の交替

第1回会合終了後、参加者の1名(男性)が転勤により第2回以降、参加できなくなったため、当初の応募者のなかから代わりの参加者を選定した。住所(町丁目)、年齢階級、性別が同一の応募者が存在しなかったことから、同一住所(町丁目)・同一年齢階級の女性に第2回以降の参加を依頼したところ、同意いただけただため、参加いただくこととした。

4. 会議の内容

(1)全体像

みその気候市民会議は土曜日午前中の3時間、3回の会議で構成した。いずれもUDCMi(さいたま市緑区下野田494-1 オークリーフ1階)を利用し、表5の通り開催した。

表5 みその気候市民会議の開催日時、テーマ、参加者数

| | 日時 | テーマ | 参加者数 |
|-----|--------------------------|-------------------------------|------|
| 第1回 | 2023年12月2日 9:00~12:00 | 気候変動(影響、対策)についての理解 | 17名 |
| 第2回 | 2024年1月20日 9:00~12:00 | 浦和美園駅周辺地区における気候変動対策のブレーストーミング | 16名* |
| 第3回 | 2024年2月10日 9:00~12:00 | 提案内容のまとめ | 17名 |

* 1名がご家族の急病のため欠席

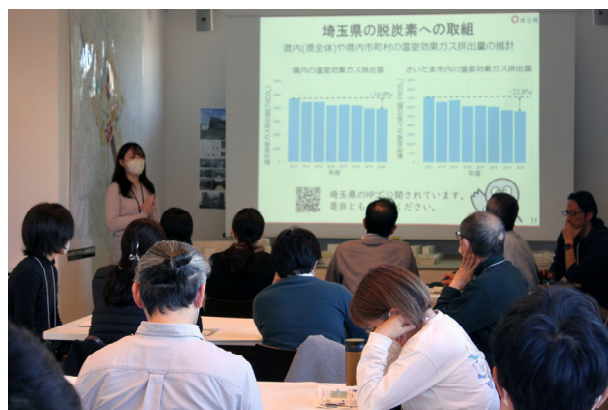
(2)第1回の内容

第1回は、全球的な視点と地区の視点の両方から、参加者が気候変動のメカニズム、影響、そして対策について理解を深める場として運営した。また、理解するだけでなく、参加者の関心事

や懸念を把握・整理するためのグループワーク(4グループ、各テーブル4～5名)をファシリテーターがついて実施した。なおファシリテーターは、UDCMi の職員3名と明治大学の教授1名が担当した。当日得られた意見の要約は【参考資料2】に示す。

第1回のプログラム

| | |
|-------|---|
| 9:00 | 開会あいさつ |
| 9:05 | 気候市民会議の趣旨について(明治大学 松浦正浩) |
| 9:10 | 気候変動について(地球全体)(東京大学・国立環境研 江守正多) |
| 9:30 | 埼玉県における気候変動影響とその対策(埼玉県環境科学国際センター 河野なつ美) |
| 9:50 | 質疑応答 |
| 10:00 | 休憩 |
| 10:10 | グループワーク:みなさんの感じる気候変動への「心配」のアイデア出しと整理 |
| 10:50 | グループ発表 |
| 11:05 | 講師からのフィードバック |
| 11:15 | さいたま市の取組について～さいたま発の公民学によるグリーン共創モデルの実現～(さいたま市 山崎静一郎) |
| 11:35 | 質疑応答 |
| 11:45 | 次回へのまとめ |
| 12:00 | 閉会 |



(3)第2回の内容

第2回は、気候変動対策の案について参加者がアイデアを出す場として運営した。第1回の終了後、一部の参加者から「もう少し話し合う時間が欲しい」というコメントがあったことから、議論により長い時間を割くこととした。アイデア出しのグループワークは2回行い、その1は年齢・

性別等の多様性を考慮して事務局側で4つのグループを設定し、その2は4つの分野のなかから自分の関心のある分野を参加者が選択してグループを構成した。分野は第1回の議論に基づき、「移動(モビリティ)」「住まい・建物」「生活」「災害」の4つを事務局にて設定した。なお、「移動(モビリティ)」を選択した参加者が多かったため、当該分野は2つのグループに分割した。ファシリテーターは、UDCMi の職員2名と明治大学の教授および学生各1名が担当した。グループワーク(その1)で得られた意見の要約は【参考資料3】に示す。なおグループワーク(その2)で得られた意見は、施策提案の一覧表としてとりまとめたが、第3回会合でさらに検討いただいたうえで、提言書に盛り込んだ。

第2回のプログラム

| | |
|-------|---|
| 9:00 | 開会あいさつ、趣旨説明(明治大学 松浦正浩) |
| 9:10 | みその気候市民会議で考える対策(明治大学 松浦正浩) |
| 9:25 | 美園のまちづくり概況および「脱炭素化」に係る主な取り組み (美園タウンマネジメント 岡本祐輝) |
| 9:40 | 質疑応答 |
| 9:50 | グループワーク:みなさんの気候変動対策のアイデア出し(その1) (※年齢、性別等の多様性を考慮してグループを設定) |
| 10:30 | 結果共有(各ファシリテーターより) |
| 10:40 | 休憩 |
| 10:50 | グループワーク:みなさんの気候変動対策のアイデア出し(その2) (※各参加者が関心のある分野を自ら選んでグループを構成) |
| 11:30 | 結果共有(各ファシリテーターより) |
| 11:40 | 全体まとめ(松浦) |
| 12:00 | 閉会 |



(4)第3回の内容

第3回は、最終的な提言の内容をとりまとめる場として運営した。第2回で取りまとめた気候変動対策の施策提案について、改めて分野ごとに提案内容を再検討していただいた。各参加者が自身の最も関心がある分野を選択してグループを構成した。このグループワークでは各テーブルにディスプレイモニタを設置し、リストを確認しながら検討した。後半には、提言をひとことで表現するキャッチフレーズを検討するワークショップも実施した。最後にとりまとめに向けて、数多く出てきた気候変動対策の施策提案およびキャッチフレーズのなかから、参加者が特によいと思うものを選ぶシール投票を実施した。施策提案に関する投票結果は、提言書の施策提案の一覧表に掲載している。キャッチフレーズについては「みえるまち そだつまち のびるまち」が最も多くの票を得た。なおファシリテーターは、UDCMiの職員2名と明治大学の教授および学生2名が担当した。

第3回のプログラム

| | |
|-------|--|
| 9:00 | 開会あいさつ・今回の趣旨等について説明(明治大学 松浦正浩) |
| 9:05 | 美園タウンマネジメント協会での報告(美園タウンマネジメント 末次一也) |
| 9:10 | グループワーク:分野ごとに提案内容の再検討 |
| 10:00 | グループワーク:キャッチフレーズの検討 |
| 10:50 | 休憩兼シール投票 |
| 11:30 | 最終とりまとめ・講評(明治大学 松浦正浩、美園タウンマネジメント 岡本祐輝、さいたま市 山崎静一郎) |
| 11:50 | 事務連絡 |
| 12:00 | 閉会 |



5. 提言のとりまとめ

第3回の会合でとりまとめた施策提案のうち、シール投票で得票の多かった提案について詳細を記述した提言書の案を事務局が作成した。案は2024年3月6日にすべての参加者に電子メール添付で送信し、3月12日までを目途に内容の確認および必要に応じて修正の指示を依頼した。その結果、1名の参加者から、温室効果ガス排出削減の成果を「浦和美園まつり&花火大会」の花火の発数で地域に還元するという提案に対して疑問が寄せられた。事務局にて対応を検討し、会合中の議論では、花火の発数はあくまで例示のひとつであったことを踏まえ、提案の表題から花火への言及を削除しつつ、本文中には言及を残すこととした。また提言書等における写真および氏名の掲載について確認を取ったところ、計18名中11名から写真の掲載、10名から氏名の掲載の許諾を得ることができた。

提言書は2024年4月に、本報告書と併せて、UDCMiのウェブサイトおよび明治大学専門職大学院ガバナンス研究科(公共政策大学院)松浦研究室が運用するMisono2050のウェブサイトに掲載した。

6. 事務局

明治大学公共政策大学院 松浦研究室

〒100-8141 東京都千代田区神田駿河台 1-1

<https://misono2050.net/> mmatsuura@meiji.ac.jp

一般社団法人 美園タウンマネジメント

〒336-0962 さいたま市緑区下野田 494-1 オークリーフ 1 階

<https://www.misono-tm.org/> research@misono-tm.org

Misono2050

12月～2月
全3回の会議です

1回ごとに5,000円を
参加いただいた方に
お支払いします

みその気候市民会議

参加者大募集！

- ・世界中で石油、石炭、天然ガスなどの「炭素」を燃やして、二酸化炭素を大量に排出しているの、地球全体の平均気温が上昇しています。
- ・平均気温が上昇すると、世界各地で異常気象（猛暑、集中豪雨、干ばつなど）が起きやすくなります。浦和美園駅周辺地区でも影響が出る可能性は十分にあります。
- ・みその気候市民会議では、浦和美園駅周辺地区の「脱炭素」に向けて、浦和美園駅周辺地区に関わるいろいろな組織や人々がこれから実行する具体的な対策を考え、対話します。

気候市民会議は「浦和美園駅周辺地区にお住まいのみなさま」の会議です。

意識が高くなくても、専門知識が全くなくても、大丈夫。

美園にお住まいの「個人」として3回すべての会議にご参加いただける方を募集します。

みその気候市民会議の日程・内容

3回の会議を2023年12月2日（土）、2024年1月20日（土）、2024年2月10日（土）の3日間、いずれも午前9時～正午に、浦和美園駅西口駅前のアーバンデザインセンターみそので開催

参加者には気候変動についての講義を聴いていただいた後、浦和美園駅周辺地区で「やるべきこと」について、少人数のグループでお話しいただきます（各テーブルに進行役がつきますのでご安心ください）。（※事前に資料を配布して「予習」をお願いすることもあります。）

参加者募集について

浦和美園駅周辺地区に居住している15歳以上の方で、3回ともご参加いただけそうな方を募集します（※すでに予定が入っている方はご遠慮願います）。

応募者多数の場合、年齢・性別等ごとに抽選で選ばれた方のみご参加いただけます（定員12名の予定）。

ご参加いただいた方には、各回5,000円（3回で15,000円）の謝礼をお支払いします（※支払方法は本人名義の銀行口座振込のみです）。

お申し込みは<https://forms.gle/QQLN4x573X2pvKFGA>で受付中！（2023年11月5日（日）まで）



共催：（一社）美園タウンマネジメント <https://www.misono-tm.org/>
明治大学専門職大学院ガバナンス研究科（公共政策大学院）
松浦研究室 <https://misono2050.net/>

協力：美園タウンマネジメント協会

後援：さいたま市

お問い合わせ先：kikou@misono2050.net

Misono2050 プロジェクトについて

詳しくは <https://misono2050.net/> をご覧ください

浦和美園駅周辺地区が 2050 年にも持続可能（サステナブル）な街であることを目指し、先駆的な企業・住民・行政・非営利組織などの取り組みを拡大波及する、オランダ発の「トランジション・マネジメント」という方法を用いた実証を 2017 年から進めてきました。

現在、地区にお住まいの 100 名以上のみなさまにご協力いただいているモニターアンケート定点調査を継続しているほか、Misono2050 まつり（2022 年 11 月開催）やワークショップ会合などを通じ、持続可能な街への変革を加速させるはたらきかけを行っています。

ワークショップ会合



オランダから講師来訪



スマートホーム見学会



Misono2050 まつり



気候市民会議について

ヨーロッパでは、政府による気候変動対策について、一般のひとびとの意見を反映させることを求める動きが強まり、フランスでは 2019 年に、英国では 2020 年に「気候市民会議（Climate Assembly）」が開催されました。これらの会議には、国民全体から無作為抽出（くじびき）で選ばれた 100 名以上の人々が集められ、お互いに議論してもらうことで、気候変動対策について、政府に対しての提言をとりまとめました。日本国内では、2020 年に札幌市において「気候市民会議さっぽろ」が実施（※明治大学松浦研究室も運営に参画）された後、2022 年以降、関東地方のいくつもの自治体によって実施されています（埼玉県内では所沢市が 2022 年に実施済）。

海外では国全域、日本国内では市町村全域を対象として実施されていますが、今回のみその気候市民会議は、より狭い「地区」に限定して気候市民会議を開催する、日本国内ではおそらく初の事例になる予定です。また、過去の事例では、無作為抽出によって選ばれた数千人に限って参加者募集を行うことが一般的ですが、今回は浦和美園駅周辺地区のみを対象とするため、無作為抽出とはせず、当該地区にお住まいのみなさますべてを対象に、参加者を募集させていただくこととしました。

気候市民会議つくばの模様



(つくば市提供)

実施主体



一般社団法人美園タウンマネジメント
〒336-0962 さいたま市緑区下野田 494-1 オークリーフ 1F
phone: 048-812-0301 e-mail: info@misono-tm.org

公共政策大学院松浦研究室（専任教授 松浦正浩）
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
email: mmatsuura@meiji.ac.jp <https://www.meiji.ac.jp/mugs2/>
(Misono2050 特設サイト <https://misono2050.net/>)

参考資料2：第1回会合のグループワーク意見交換の簡易記録

意見交換簡易記録（1班）

（記録：美園TM岡本）

■夏季の酷暑の生活への影響

- 以前に比して近年は特に夏は酷暑となっている。
- 現在の住宅仕様・住環境で5～10年後も果たして大丈夫か心配。
 - 住宅の密集化が進んでしまったら災害リスクが高まる。
- （中学時代）日差し・気温によっては屋外で部活動ができない日もあり、競技練習が十分にできないことがあった。
- 酷暑の中、気軽に立ち寄れる場所（クールスポット）が少ない。
 - 「子ども110番の家」がもっと増えれば良い。
 - 子ども達も「子ども110番の家」の位置等を認識しきれていない懸念。

■災害(水害)リスク

- 集中豪雨等による綾瀬川の氾濫が心配。
 - 集中豪雨時に綾瀬川沿いではサイレンが鳴ることがあり、恐怖を感じる。
 - 集中豪雨の後に綾瀬川沿いの調節池が満杯になることがあるが、貯水量が十分か不安。
 - 河川水が調節池に流入した後は、近辺に臭いが漂う。必要な施設であることは理解できるが、決して心地の良い環境ではない。
- （みそのウイングシティ内）災害時に地盤沈下が今後起こらないか心配。

■地域交通環境

- 国道122号（浦和IC出口からの合流箇所、大門交差点等）や、国道463号バイパス沿いの交差点など、幹線道路の渋滞により排気ガス（CO2排出量）が余計に増加する懸念。
- 自家用車を使いやすい都市構造・都市環境であるため、どうしても車に頼りがち。
 - 乗用車よりも路線バスを使う方が低環境負荷であることは理解しつつも、交通渋滞により発着時間が読めないのが、路線バス利用を敬遠してしまう。
 - 大宮駅・浦和駅方面に行く用事がある際、鉄道だと大回りになる。
 - 埼玉県南の鉄道網は縦に強く、横に弱い。

■地域の連携体制

- 新規転入者も多く、人口構成に偏りがある。災害発生時の近隣連携体制が未熟。
 - 美園北小開校時に学区再編が行われたが、美園北小の児童数が今後想定以上に増えそうだと分かって、再度学区の再編検討が行われている。振り回されるのは子ども達。
- 地域内に立地している企業等においても、気候変動対策・脱炭素化に向けて色々と協力できることがあるのではないかと。
 - 一方で、既に色々な尽力をされている企業もあるだろうが、そうした取組が地域住民に伝わっていない恐れもある。
- （地域医療体制）順天堂大学病院は本当に建設・開院されるのか？

■夏季の酷暑の生活への影響

- 野菜が不作で、スーパーマーケットでの価格が乱高下しているように感じる。
- 街路樹が少ないため、日陰が少ない。特に美園・美園東のあたり。
 - 子どもが夏に外で遊べなくなっている。
- 下野田緑地は木陰があってよい。

■災害(水害)リスク

- 2023年の集中豪雨の際、越谷市街では浸水していたが、美園は河川や調節池が足下まで水が溜まっていたものの浸水しなかったのが対策できているのかと感じた。
- SR車庫付近に以前存在したアンダーパスや東川口駅のガード下は水没していた。
- 綾瀬川の水位の変化が大きく、少ない時は涸れているように見えるが、大雨のときには満水になる。

■地域交通環境

- 東北道上り、浦和料金所や出口は岩槻のほうから慢性的に渋滞。
- 埼スタ～イオン（美園1号線）のイベント時の渋滞やマクドナルド入口の渋滞が激しい。
 - 渋滞する自動車からの排熱も暑さの原因ではないか。
 - 渋滞時は自転車で移動したほうが速い。
- 自動車ありきの街になっているので、なくても生活できる街になればよい。
- REDバスはたいへん便利で、自家用車がなくても移動できていた。
 - 美園公民館の行事に子連れで行けたのは便利だった。
 - 期間限定だったので、結局、自家用車が必要になる。
 - 千葉に住んでいた頃はコミュニティバスがあり自動車不要だった。
- 駅の西側で特に店舗が少なく、買い物が不便なために自家用車が必要。
- 美園東のほうから駅に自家用車で来る人が多い。
- オーバーパスを含め坂が多いため自転車の移動が困難。

■地域の連携体制

- 子どもの急増を行政が予見して対応できておらず、学区再編など混乱している。
- 教育のなかで気候変動を扱えるとよい。
- 自家用車以外の方法で来店したら割引するといった取り組みをイオン等に期待。
- イオンでもカインズのような太陽光発電をより採用したらよい。

■夏季の酷暑の生活への影響

- 教育現場における温暖化と思われる影響が不安。
 - 登校時の暑さ対策や、体育授業制限による運動習慣が定着しにくくなる心配。
 - 酷暑の中、学校で活動している子供たちは本当に大丈夫なのかが心配。
- まちに日除けとなる場所が少ない。
 - 公園に日除けがなく、夏は子供たちを遊ばせてあげられない（公園を使えない）。
- 酷暑が作物の生育にも影響、商材高騰による日常生活への影響が心配。

■災害(水害)リスク

- 集中豪雨等による綾瀬川の氾濫が心配。
 - 集中豪雨の後に綾瀬川沿いの調節池が満杯になることがあるが、安全な貯水量が明確にされていなく（不明）不安。
 - 綾瀬川沿いに居住を構えているが、集中豪雨時の水位を目のあたりにすると、本当に安全なのかが不安。

■地域交通環境

- 酷暑の中、歩かずにまち中を気軽に移動できる交通手段があるといい（海外例だとインドのリキシャ、タイのトゥクトゥクみたいな）。
- 自動車のガソリン代高騰も心配だが、商業施設がイオン以外あまりなく、ほかに何らか見に行こうとすると越谷や春日部、浦和まで足を運んでいる。そのため必然と温室効果ガスの排出量が高まる要因となっている。

■再生可能エネルギー導入懸念

- 太陽光発電のエネルギーを昼夜バランス良く使うには蓄電池が必要かと考えるが、高価なため発電と蓄電の組み合わせで導入が進むようなインフラ施策はできないか？
- 太陽光未設置な既存住宅の屋根に、新たに太陽光を設置する場合の費用が費用対効果と見合わない（費用が高い）。
- 化石燃料依存が続くと、エネルギー価格高騰による電気代値上げが心配。

■教育・情報発信の懸念

- 気候変動について理解を深める教育や情報発信の提供を、大人たちがきちんと受け取れることができるのか（子供たちは学校で教育されている）？
 - 気候変動に資する情報は、自分たちで取りにいかないといけない不信さがある。

■夏季の酷暑の生活への影響

- 住宅地は日陰が少なく、夏場は特に暑すぎる。
- 暑い時期にバス待ちをする際など、屋外で日除となる場所が無くととても困っている。
- どうすれば温度上昇を止められるか、わからない。
- 暑い時は外出が嫌になるほど、気温が高い。

■災害(水害)リスク

- 集中豪雨等による綾瀬川の氾濫が心配。
 - 綾瀬川の増水による住宅浸水が心配である。
 - 大雨時、雨水が集中する箇所もあるため心配。
- 排水溝にゴミがいっぱい溜まっているため、浸水に繋がる。
- 大雨時は、調節池に水が溜まっているため、利用できなく残念。
- 最近綾瀬川の水位が低い気がしている。
- 災害時、避難時の高い場所がないため生存率が下がる可能性がある。
- マンションが多く建っているため場所によってはビル風が強く、事故が心配。

■地域交通環境

- 渋滞が激しい時があり、排出ガスの排出が多い(特に埼スタでのイベント開催時)。
- 慢性的な交通渋滞のため、排出ガスが増えている。

■再生可能エネルギー導入懸念

- 化石燃料の方がエネルギー量は少量で大きいのではないか(少ない量でまかなえる)。
- EVは充電に時間がかかるし、充電場所も少ない。

■自治体施策等

- 緑区と岩槻区でまちづくり施策が違い、区での対策が違う感じがしている。
- 公園の雑草は刈っていいのかわからない。

■その他（住宅事情）

- 住宅が急に増えており、工事が多く騒音が増え近所迷惑になっている。

参考資料3：第2回会合のグループワーク(その1)意見交換の簡易記録

意見交換簡易記録（1班）

（記録：美園TM岡本）

■移動（モビリティ）

- 歩行空間、自転車走行空間：
 - 徒歩・自転車での移動をしやすいように歩道を広くする。
 - 自転車走行空間ネットワークが微妙につながってない箇所が存在する。
- 駐輪場：
 - 自転車での移動がしやすいように駐輪場を整備。
 - 自転車での移動促進のために、駅前に一時駐輪場をつくる。
- 自動車のEV化等：
 - 自動車の燃料をCO₂をあまり出さないものにする。CO₂排出量は「ガソリン≧ハイブリッド≧EV>水素」となっている。
 - EV化等の社会的意義はよく理解できるが、コストや充電手間を考えると乗換を躊躇してしまう。
- カーシェア：
 - 1家に1台は自家用車を所有する家庭も多く、日常生活で活用するイメージが湧かないのではないかな。
 - 駅に近いマンション・アパート等では駐車場付設台数割合が低い傾向があるため、駅周辺に賃貸住宅が増えれば定着する可能性がある。

■住まい、建物

- 太陽光発電等：
 - 自動車のEV化と同様に、導入する社会的意義はよく理解できるが、実際の発電量やコストなどデメリット・リスクがどれだけあるか不安。
- 住宅敷地内の緑化：
 - 少しでも緑化をしたい意識から自宅内に庭を設けて花・木を植えているが、維持管理に手間は実際かかる。

■生活、その他

- 日々の購買行動：
 - 地産地消を心がけるようにする。
 - 直売所等を利用したり、イオン等でも地元農産物コーナーを意識的に使うようにしている。
- 教育：
 - 子どもが多いまちという特性もあるため、総合学習（地域学習）の枠組み等で普及を図るのが良い。

■災害リスク（水害、酷暑）

特になし

■移動（モビリティ）

- バス
 - 地区内で既存のバス路線のバス停を新設
 - ◇ バス停の間隔が広い（＝自宅から歩く）ことが不便
 - ◇ ヤマダ電機のある交差点の付近に欲しい
 - バス路線を新設
 - ◇ さいたま新都心、大宮方面
 - 鉄道だと乗り換えが面倒なためマイカー利用が増える
 - ベビーカー利用時の乗り換えが大変
 - コミュニティバス
 - ◇ 雨天時に利用したい
 - ◇ ウニクス前にバス停が欲しい
 - 女性、高校生等の夜間移動の安全確保
- 自転車・歩行者
 - 自転車の走行しやすい道路の整備
 - 歩きやすい道路の整備
 - ◇ 美園東の細街路の路面が悪い、歩車分離なし
 - シェアサイクルの拡充
 - ◇ 美園東に少ないのでステーション増設希望
 - ◇ 認知度拡大
 - 使い方が分からない、存在を知らない
 - 電気自転車購入補助、条件（子供の数など）引き下げ
- 自動車
 - EVの充電スタンド増設
- アプリ
 - 歩数等をカウントしてポイント等を付与するサービス導入
 - ◇ イオンですでに存在している

■住まい、建物

特になし

■生活、その他

- スーパーや個人商店のさらなる立地
- 商店街をつくる
- 移動スーパー

■災害リスク（水害、酷暑）

- 屋根付きの歩道（風除けも）の整備
 - 駅東口でビル風のような突風がある
- 暑さをしのぐ喫茶店（チェーン店のような気軽に入れる店）の立地

■移動（モビリティ）

- 歩行空間、自転車走行空間：
 - 安全かつ円滑な通行のために、自転車と歩行者を更に分ける工夫ができないか。
 - 徒歩や公共交通機関を積極的に使う人に対して、ポイント付与のサービスを作る
 - 高校生の自転車通学待ちで、車の渋滞が起こる道路があり、交通整備をしてほしい。
- 自動車のEV化等：
 - モビリティサービスの拡充、自家用車利用を減らすため、地域の道が広い特徴を活かし自動運転等の実験をしてみてもどうか
- カーシェア：
 - 自家用車利用を減らすため、カーシェアのスポットが増えると使いやすい。
- バス路線の新設：
 - 子供が気軽に移動できるような近場にバス停があり、周遊できるミニバスがほしい。
 - スクールバスを運用する等、通学路の整備

■住まい、建物

- 太陽光発電等：
 - 戸建て住宅の太陽光パネル設置を促進するために、活用しやすい補助金制度や実績のある安心できる施工事業者の紹介制度があるといい。
 - 創エネの観点で、多様なクリーンエネルギーの発電設備が地域内に導入できないのか（例えば、河川沿いに風力や水力発電等）。
- 住宅敷地内の緑化等：
 - 温室効果ガスの吸収源の確保という観点から、土地や建物に緑を増やす取組みができるような土地を売買するオーナー等にインセンティブを与えられないか。

■生活、その他

- 地産地消につながるフードイベントの企画・開催（地域の特産が分かりにくい）。
- 「新たな住民に脱炭素のまち」を表明し、地域の脱炭素化に向けた取組みの継続を促す。
- 地域の脱炭素化に向けた取組み等に積極的に参加できるよう、未来のまちづくりについて知る機会を増やしてほしい。
- ゴみの分別・リサイクル：
 - ゴみのリサイクルや焼却を減らすために、駅等にいつでも出せるような分別のゴミステーションが設置できないか（例えば、ゴミ拾い等で集めたものの捨て場に困る）。
 - ゴみのリサイクルステーションが増やせないか、またリサイクルによるポイント付与のサービスが合わせてあればいい。

■災害リスク（水害、酷暑）

- 酷暑対応：
 - 夏場を過ごしやすくするために、街路樹等を増やし日除けの備えをする。
- 公園整備：
 - 災害時に対応の備えがある公園がほしい（例えば、かまど等を備えたベンチの設置等）。
- 防災行動：
 - 大雨等に備え、排水の機能を確保するため、日常的に住民が側溝等を掃除する。
 - 自主防災組織ができないか（防災に対し、自治会が機能していない気がする）。

■移動（モビリティ）

- バス、地区内交通
 - 気軽に乗れる循環バスがほしい
 - 埼玉スタジアム・遊歩道に自動運転バスを運行すると、パーク&ライドが進み人の分散になりそう
 - RED タクシー復活してほしい、雨の日など便利だった)
- 自転車・シェアサイクル
 - 自転車に乗ると特典を付けると利用が増えるかも)
 - シェアサイクルの使い方がわからないので広めてほしい
 - シェアサイクルの無料化・クーポン化をして活用を進めてほしい
- 歩行者
 - 綾瀬川遊歩道に電灯を設置して夜に歩けるようにしてほしい
 - もっと道を広くして歩くやすくしてほしい、風も通るので気温調節にもなる
 - 歩道の整備をしてほしい)
 - 道路沿いの植栽を整備してほしい
 - 埼玉スタジアム・遊歩道に路面太陽光発電を設置して整備するのはどうか
- 自動車
 - 渋滞の対策が必要)
 - カーディーラーがたくさんあるので、電気自動車に触れるよう協力してもらいたい
- その他
 - バス・シェアサイクルでポイントがたまり、美園の街で使えるとよい
 - 埼玉高速鉄道の岩槻への延伸はメリットだけでなくデメリットも含め検討してほしい)
 - サッカー客にふるさと納税を進めるなど、外部からの資金調達佐藤)

■住まい、建物

- 日陰をたくさん作る)
- 住宅の区画を広くとり、風通りをよくすることで気温上昇を防ぐ
- 地下熱暖房の住宅を増やす)

■生活、その他

- 商店
 - 地価や土地活用方針の影響で個人店が出店しにくい、キッチンカーなどのペント出店でもよいのもっとほしい
 - お店の数自体が少ない)
 - 埼玉スタジアムから駅までのエリアにお店を増やし、サッカー帰りに楽しめる街に
 - 石畳に舗装するなどして、おしゃれなカフェや地産地消スーパー、バーなど小さな店が集まったエリアが欲しい
 - 綾瀬川の遊歩道にお店を増やし散歩がてら楽しめるように)
- 地産地消
 - 美園ならではの特産物の開発)
- 消費活動
 - 美園 Pay を開発し、QR コード決済などできたら便利
 - 市民共通の容器を用意し、容器を持ち帰り可能にするとゴミ削減になる
- 教育
 - 小学校の脱炭素教育をすすめる、オンラインを活用し外部の手を借りて実施)
 - 小学校などで街づくりについて考える授業を取り入れる)

■災害リスク（水害、酷暑）

特になし